毎月5日と20日は
無火災推進日です

松ヶ崎消防報

平成 26 年 1 月 13 日
左京消防団松ヶ崎分団
分団長　芝山　宗昭

大規模災害時、共助の芯となる消防分団を目指して!

明けましておめでとうございます。早速ですが、昨年の京都市の災害を振り返って見ます。6 月は広河原での大規模な山火事、9 月は伏見区や右京区での大規模な水害（左京区でも 4 学区で小規模な水害）、火災はここ数年平均の 1 割増で発生。多くの周辺学区で中規模の火災が発生した。一方、我等が松ヶ崎学区は、放置焚き火・事故救助・警報機誤報原因の出動が 10 件程度あったものの、原稿執筆 12 月 20 日時点で火災ゼロ。

火災の主原因は　放火、炊事コンロ、ストーブ、タバコであるから、松ヶ崎学区民の落ち着いた暮らしぶり、融和を図る諸行事、月 2 回の消防分団パトロールなどが、火災の少なさに寄与していると思われる。

風水害に関しては、松ヶ崎の高めの土地、緩やかな傾斜、管理された水門・水路のお陰で、10 年来、冠水ゼロ。山際の小規模な出水や土砂崩れが懸念される程度。

地震災害に関しては、花折断層起因のマグニチュード 7.5 地震の発生確率が高まっている。同規模の阪神淡路地震の災害を、松ヶ崎「住民 8300 人、家屋 4200 軒」に当てはめると、17 人が死亡、120 人が負傷、600 軒が全半壊、1 軒弱に火災発生、16 軒延焼、が予想される。なお、京都市防災マップ記載の左京区被害予想値は上記方式の類推よりも 1 ～ 5 倍厳しい値である。より一層の備えが必要と言える。

左京消防署管内では、平均して 3 学区に消防隊の 1 隊（ポンプ車 1 台と署員 5 名）が配置されているものの、大規模地震下の火災同時発生では松ヶ崎学区への優先駆け付けはありえない。学区内で 1 6 軒消失は現実味を帯びている。

松ヶ崎消防分団には、消防署ポンプ車の約 1 ／ 3 の能力の小型動力ポンプが配備されており、水源から 200 メートル離れた場所、高さ 50 mまで、毎秒バケツ 2，3 杯分の水を送れる。学区内の全てに場所で、迅速に消火できるよう、放水訓練地点を増やす計画である。

隊員の訓練は警防担当副分団長河村栄二と教育担当副分団長佐橋学の主導で、自主防災会との連携は予防担当副分団長北川憲一主導で、全体管理は総務担当副分団長西郡藤夫と芝山が進めます。地域の皆様の助言とご協力をよろしくお願いします。

左京消防団　松ヶ崎分団長　　芝山　宗昭

消防分団の活動に一層のご支援ご協力を

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新年を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は京都府内でも、風水害による大きな被害が発生しました。

お陰様で、当地では、火災を含め大きな災害もなく過ごすことが出来ました。災害のたびに、地域の消防団の活躍・必要性が報道されています。しかし乍ら、団員の確保は難しく、全国的には防火防災活動に支障をきたすことが、予想される状況にあります。当分団では幸いにも、昨年中に三名の新入団者を迎えることが出来ました。

ここ十年の間でも、常に定員を上回る団員数が確保され続けております。

この事は即ち、分団の活動に対し、地域の皆様と団員御家族の深い御理解と御協力の賜と、深く感謝致しております。本年も、分団を先頭に、自主防災連合会・自治連合会・消防署等と、一体となって、地域の安全と安心の確保に取り組んで参りますので、引き続き御支援と御協力の程よろしくお願い申し上げます。

松ヶ崎消防分団後援会　会長　　三宅　秀典

地域コミュニティと防災訓練

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、家族お揃いで希望に満ちた新しい年を迎えられました事とお慶び申し上げます。

昨年は左京区総合防災訓練が、松ヶ崎学区で実施されました。

松ヶ崎自治連合会の下、各種団体が手分けしてブースを受け持ち無事に終了することが出来ました。

従来にない、住民参加型の新しい防災訓練の手法を取り入れ、楽しみながらしっかり学べる「イザ！カエルキャラバン！」の名称で多くのファミリーが参加していただきました。

これからの高齢化社会に向かって、地域コミュニティの活性化が大切になってくる昨今、身近な事柄から輪を作って広げてゆくことが大切になって来ます。

災害時には自分の身体は自分で守り、周りの人の救助を心がけて、避難所へ無事に非難し、公的援助を待つ基本動作が平常心で行えるように訓練に参加して、養って頂ければと願っております。

避難行動・避難運営には日頃から顔見知りの、町内単位での行動が最善になります。

幸い自主防災会では総合訓練時に、町内単位での避難訓練を実施していますが、さらに町内単位での防災訓練に力を注ぐように考えております。

これからも災害に強い町作りを目指し、松ヶ崎消防分団のご指導を得て、皆様方と共に地域コミュニティの活性化にも役立つ訓練を目指し、歩んでいきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

松ヶ崎学区自主防災連合会　会長　　中島　熙泰

消防団設備紹介（1）“小型動力ポンプ”

消防分団が消防局から借用あるいは所有している消火機器は、小型動力ポンプ 1 台、背負式水嚢（愛称ジェットシューター）6 基および消火器 37 基です。今回は小型動力ポンプを紹介する。

小型動力ポンプとは、消防署ポンプ車の 2 階級下のポンプ（B-3 級）を心臓部とし、混合燃料を使う 2 サイクルエンジン、吸水系、荷車を組み合わせた物。阪神淡路大震災の 2 年後の平成 9 年に配備された。毎秒 10 リットル（バケツ 2 ～ 3 杯）の水を、水源から 200m 離れた、高さ 50 メートルの目

標物に放水することができる。2 人～ 4 人の団員で手搬送できるので、山火事では頻繁に使われる。

松ヶ崎分団では、2 ヶ月に 1 度の間隔で、実放水訓練を実施。小学校運動場西から取水し、運動場や七面さん脇に放水することが多いが、昨年は大黒さん参道脇取水、妙円寺脇や白雲稲荷脇放水を追加した。11 月、白雲稲荷で行なった放水訓練のスナップを示す。

安心都市、京都の実現を目指して

平成２６年の輝かしい新春を迎え，松ヶ崎学区の皆様方に心からお慶びを申し上げます。

平素は，消防行政の推進に一方ならぬご支援とご協力を賜り，誠にありがとうございます。

さて，昨年は異常気象を実感させられた年でしたが，とりわけ台風１８号がもたらした豪雨では，制度の運用開始後わずか二週間，数十年に一度程度しか発表されないはずの危機的な状況を意味する『特別警報』が，ここ京都に全国で初めて発表されました。

市内の各所で，そして左京区におきましても様々な災害が発生いたしましたが，地域防災のリーダーである消防団を中心に，自主防災会をはじめとする各種団体，そして地域住民の皆様方が一致協力して被害軽減のためにご対応いただきました。

改めて，京都という都市が持つ地域力，市民力の大きさ，そしてその大切さを実感したところでございます。

火災，地震，風水害など，災害への備えは多岐に渡りますが，地域コミュニティーを基盤とした事前の備えを充実することにより，「減災」は必ず実現できると考えます。

本年も，消防職員，消防団員がしっかりと手を携え，「地域密着型の消防」，「力強い消防」を以って，地域の皆様方と共に「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現を目指してまいりますので，引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

左京消防署長　　石田　克弘

フレッシュマン紹介

才津和範

８月１日付で入団致しました才津和範です。

出身は長崎、大学卒業後、自衛隊に入隊し、１２年間全国を渡り歩いておりましたが、先に移り住んでおりました両親と同居すべく職を辞し、５年前にこちら松ヶ崎へ越して参りました。

現在はコンピュータ関連の仕事を営んでおりますが、仕事柄、篭りきりになることが多く、何某かの公的活動に参加したく考えておりました折、昨年夏に分団長からお声掛け頂きまして、過去培った経験も活かせるのではないかと、入団を決意した次第です。

消防、救急救命、防災といった、過去接することが無かった、新たな知見を得る機会にも恵まれ、新鮮な気持ちで識能の拡大に取り組んでおります。

また、経歴上、身体には自信があったのですが、如何せん現役を退いて随分と鈍っているようで、最近は体力を取り戻すべく、健康管理と定期的な駆け足に励んでおります。

継続して身・技のスキルアップを図り、先ずは組織戦力となることを本年の目標にしたいと考えております。

居住年数も浅く、未だ、「故郷を守る」という意識が薄いのは否めませんが、
夏以降、種々地域行事にも関わることができ、また、地元の方々と接する機会も増え、少しは地域の生活が実感できるようになってきたと感じております。

今後も可能な限り積極的に活動に取り組んでいく所存ですので、分団員始め地域の皆様には、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

山田信雄

平成25年８月１日付けで松ヶ崎消防分団に入った山田信雄です。分団器具庫から一番近い堀町に住んでいます。鉄鋼関係の会社を昨年３月末付けで定年退職し、現在60才です。出身は九州の福岡県飯塚市です。ご存じないかも知れませんが、昔は炭鉱で栄えた町で戦後は石炭産業が日本を支えたと云っても過言ではないでしょう。子供の頃は炭鉱住宅も多くそれは賑やかな所でした。家の近くには麻生副総理の麻生本家や柳原白蓮で有名な炭鉱王の伊藤伝右衛門の大豪邸があり当時の繁栄が伺えます。

趣味は、ゴルフと剣道で健康のことも考慮に入れ、身体を動かすことを念頭に置いています。ゴルフはハンディ24で下手の横好きと云ったところでしょうか。団でもゴルフ好きな方が多いので、この分野でも皆さんとの人の輪を広げたいと思っています。剣道は、本チャンで取り組みました。段位は教士７段で長崎国体２位や京都学生で個人優勝したことがあります。「交剣知友」剣の思い出も多いですが、東京勤務時のＨ８年には当時総理大臣であった故橋本龍太郎先生とお手合わせした経験もあります。

母校の大学体育会剣道部では恩返しの気持ちも有り監督・理事長も勤めさせていただきました。

入団したキッカケについては、顔見知りであった芝山分団長が自宅に来られ熱心に入団を勧められたからです。それまで、消防関係に関心や興味が有った訳ではなく、月２回の見回りをやっている位の知識でした。

私も退職し時間も有るしあまり活動のことも理解せずに「ハイ」と返事をしてしまい、結局は分団長の策略にはまったのかなと思ったりして……

まだほやほやの新団員ですが、８月から活動には参加させていただいています。毎月５日と20日の定例見廻り、妙法送り火警備、区民運動会警備、新宮神社祭礼警備等の活動を行いましたが、消防の他にも芝山分団長以下が用意周到に計画されこれらの地元での政（まつりごと）が成り立っていることが体験・理解できた半年間でした。

約25名の団員が所属していますが大半が仕事を持ちながら、地元を良くして行こうと志を高く持ち活動に参加されていることは、頭が下がる気持ちです。団員も30歳台から70歳台と年も離れ、仕事内容も多種で色々な面で経験豊富な方も多く、とにかくバイタリティに満ちているし、皆さんのネットワークも広く中身が濃いように思えます。

今後の抱負としては、今回メンバーに加わることになりましたが、地元の火災・災害を防ぐことを第一義に取り組み、松ヶ崎地区の発展の一助となるように努力し、消防団活動を通し退職後の生活を充実したものにしたいと考えています。

板垣　晋

平成25年12月より松ヶ崎消防分団に入団いたしました板垣晋（いたがき すすむ）と申します。

松ヶ崎へ引っ越してきてから１年が経つところですが、この地は学生時代より馴染みのあった地域でもあり、今回、このような形で微力ながらも地域活動のお手伝いができることを嬉しく思っています。

もとより、地域活動への関心は高かったため、以前住んでいた地域でも地元の子供会の役員を務めさせていただいたり、地元の祭りを実行する地元団体にもお世話になっていました。松ヶ崎でも同じような活動をさせていただく機会に恵まれ、そのご縁がきっかけで松ヶ崎消防分団への入団を志願し、入団させていただいた次第です。

地域における消防団の活動の重要性は、先の東日本大震災の例にもあるように、非常に大きいものと思っています。そのような消防団団員としての自覚をしっかり持ち、地域のお役に立てるよう、がんばっていく所存です。どうぞ、宜しくお願いいたします。

消火器や火災警報機を備えましょう。ご相談ご購入は最寄りの分団員まで

左京消防団松ヶ崎分団員　二六名

分団長　芝山 宗昭
副分団長　西郡 藤夫（総務担当）
副分団長　北川 憲一（予防担当）
副分団長　河村 栄二（警防担当）
副分団長　佐橋 学（教育担当）

東部担当（井出ヶ鼻、小竹藪馬橋以北、河原田、樋ノ上、東、小脇）
部長　三宅 勝（教育副担当）
班長　山田 勉
団員　高 靖敏
団員　山田 信雄

北部担当（御所ノ内、堀、中、西、西山）
部長　樋口 晶弘（予防副担当）
班長　山田 徹
団員　梶 広宣
団員　卯野 貴也

中部担当（雲路、鞍馬田、木ノ本、海尻、壱町田、修理式、工織大）
部長　宇佐美賢一（総務副担当）
班長　三宅 祥文
団員　半井 達弥
団員　板垣 晋

西部担当（六ノ坪、井出ヶ海道、今海道、芝本、横縄手、三反長、呼返、泉川）
部長　京極 康生（警防副担当）
班長　梅津 康正
団員　矢野 博敏
団員　島内 研

南部担当（小竹藪馬橋以南、正田、久土、杉ヶ海道、芋ノ上、柳井田、東桜木、桜木、西桜木）
部長　蒔田 桂三（警防副担当）
班長　藤井 照夫
団員　木村 宏章
団員　今西 謙介
団員　才津 和範

団員の異動・退団
永原 照士（上高野分団へ異動）
小柳 憲治　岡田 亨（退団）
※ご苦労様でした。（敬称略）